

経済リポート 掲載記事

(2016年12月10日号)

14ページ)

「最期まで本人らしい生活を支援」

当法人の理念と地域交流事業などの

実践が紹介されています。

10日間に10万人が読む雑誌・びんご圏と岡山圏の情報誌

経済リポート

2016 12.10 1575号

www.keizai.info www.keizai.co.jp
info@keizai.co.jp

2016年(平成28年)12月10日発行(毎月1日・10日・20日発行)
1973年(昭和48年)7月27日 第三種郵便物認可

最期まで本人らしい生活を支援

地域の絆

12/24もちつき大会開催
10周年記念し餅100個振舞う



NPO法人地域の絆(福山市木之庄町4-4-26、中島康晴代表理事)の地域福祉センター向永谷(同市駅家町向永谷72-1、高尾奈美管理者、電084・977・1417)で12月24日(土)午前11時~午後2時、第9回もちつき大会を開く。雨天決

行。もちつきの実演や体験、スタンプリー、写真展などを催すほか、つきたてもちや焼き鳥、ぜんざい、飲み物各種などのバザーもある。参加は無料。なお当日はセンター開設10周年を祝し、もちを限定100個、先着で振舞う。

同NPOは備後圏を中心に、県内に9施設を構えている。同所は小規模多機能型居宅介護事業所であり、地域交流スペースや福祉よろず相談所も併設している。木造平屋建てで、定員は29人。「基本的人権の尊重」「地域主義」「平和主義」を法人理念とし、「住み慣れた地域で、末永く本人らしい生活を送れるよう臨機応変な支援を行う」ことなどを運営方針としている。そこでスタッフは、重度の障がいを負っていたり、末期がんで看取りが近い患者であっても、少しでも本人らしい人生の締めくくりができるようサ

ポートに全力を尽くすという。そのため、終末期と言われた患者が立って歩けるようになったり、最期を見送った後に遺族から「できる限りのことをして上げられた」と喜ばれたりす

ることが多いという。

高尾管理者は「まず利用者様とお話をしますし、御家族の方からも利用者に関する様々なお話を伺います。スタッフ間で情報を共有し、またパートナーのつもりで、ストレッチクス(利用者が持っている強さ、または利用者を強くする事ができる要因)を意識して、過去の仕事や趣味などから、利用者が最もいきいきとできる状態を引き出し、創り出せるよう努めます」と話す。

同所には看護師が常勤1人、パート2人が勤務。入浴は介助して行う。食事は家庭料理を職員と一緒に食べる。訪問・泊り・通いは、利用者の意思を尊重する。利用者の家族が介護疲れでくじけないよう、利用者だけでなく家族にも寄り添うようにサポートするという。

高尾管理者の話「10周年を迎えられることを、地域及びご家族の皆様感謝申し上げます。これからの10年も精一杯務めます。地域の皆様の安心できる場所になっていきたいものです」。

写真は昨年の様子。餅をつく男性は末期がんの重篤患者だったが、本人の希望で祭りに参加。笑顔が見られ、痛みの訴えもなかったという。右の男性は中島代表理事。